

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称  
令和5年度 第1回丹波篠山市文化財保護審議会
- 2 開催日時  
令和5年9月28日（木）午後7時00分から午後8時15分まで
- 3 開催場所  
丹波篠山市立篠山市民センター 2階 研修室5
- 4 会議に出席した者の氏名
  - (1) 委 員 今井進、山口啓一、中西健治、田井彰人、浅海真弓、市野茂子
  - (2) 執行機関 社会教育部長 小林康弘  
丹波篠山市教育委員会事務局 文化財課  
課長 村上由樹、課長補佐 田中和哉、主査 山本有子
- 5 傍聴人の数  
1人
- 6 議題及び会議の公開・非公開の別  
全て公開
- 7 非公開の理由  
該当なし
- 8 会議資料の名称  
令和5年度 第1回篠山市文化財保護審議会資料
- 9 審議の概要
  - (1) 開会  
教育委員会社会教育部長あいさつ
  - (2) 委嘱状交付
  - (3) 会長の選出について  
委員の互選により会長に今井 進氏が再任される。  
今井会長あいさつ

(4) 報告事項【事務局報告】

- 1) 令和5年度の文化財課組織及び施策について
- 2) [県指定]天然記念物「上立杭の大アベマキ」の滅失について
- 3) 「陶の郷」を中核とした丹波焼の郷文化観光拠点計画

【意見等】

特になし

(5) 審議事項【事務局説明】

- 1) 令和5年度文化財保護事業について
  - ①史跡篠山城跡の保存と活用
  - ②文化財の保護・管理
  - ③篠山城下町における町並みの保存と活用
  - ④福住地区における町並みの保存と活用
  - ⑤文化施設4館の運営
  - ⑥伝統文化の振興

【意見等】

A 委員：春日神社の能舞台修理事業について、大工の棟梁と話をする機会があった。東側の舞台裏の基礎が下がっているため工期が延びたと伺った。

私の記憶では、能舞台ができる前の春日神社の境内の絵図でも確かにえぐれている。舞台を作るときに盛り土をして作っているので150年経つと基礎が下がったのだらうと想像している。

あそこまで舞台が裸で剥き出しになっていることはない。篠山の舞台は江戸城の舞台を模したと言われていて、今はもう江戸城の舞台はないので江戸時代の式楽の能舞台の様式を篠山の舞台が今も伝えているという捉え方もできる。丹波篠山市民のみならず日本国民にとっても貴重な能舞台であると思っている。

また、施工事業者も記録をとられていると思うが、市独自でも工事期間中に出来る限り記録をとってもらえるとありがたい。新聞にも掲載されていた梁について、松であればあの形はありうらうらと思う。想像であるが、文久元年の建立のときに大工の棟梁が山へ行って木を選んだのではないかと。最低でも20年はねかさないと使えない。20年から30年前の藩日誌の中に何らかの形で記録があるかもしれないということを頭の隅においておくことができるといいかもしれない。棟梁によると何点か修復した跡がある。舞台の下の地べたの横木はベイマツという外国材が使用されているので近年の修繕だろうということが分かるなど、舞台建立後の修復の歴史、文化財になるときの屋根の葺き替え、垂れ幕の修復など150年の間にいろいろあると思う。そういうことも含めて記録という作業が必要だと思う。それから、棟梁が修理を見に来られる人が意外に少ないとおっしゃっておられた。寺社の修復をしているとものすごく多くの人が見に来られるとのこと。篠山は文化度が高いと知れているがびっくりするほど少ないとおっしゃっていた。能舞台は他の建造物と違って必ずしも舞台上、水平レベルをとっているというわけではなく少し傾斜があるように聞くと、棟梁も腑に落ちるところはあるとおっしゃって

いた。できるだけ見学いただきたい。

事務局：記録については文化財建造物保存技術協会が事業終了後、3ヶ月ほどかけて詳細なものを作成する予定である。どうしても工事記録のような内容になりがちなので、記録の内容について山口先生からもご指導をいただきたい。

見学する人が少ないことについて、10月の秋の祭礼を終えてから一般公開をしたいと考えている。

部長：一般的な感覚として、工事現場には入ってはいけない、邪魔をしてはいけないという印象がある。先ほどのご意見を伺い、見学してもいいんだと思った。どんどん見学してくださいと周知してもいいということか。

A委員：どんどん行ってくださいというのがいいのかは分からない。日を定めて見学されてはどうか。

部長：貴重な機会でもあるし、興味を持っておられる方もいらっしゃるので日程を定めて見学いただき、解説もしていただくという予定にしている。

A委員：本当に貴重な能舞台であり、丹波篠山市に取り込んではいけない。全国的に貴重な能舞台であるという認識を持っておかなければいけない。

事務局：資料5ページの「陶の郷」を中核とした丹波焼の郷文化観光拠点事業について、調査は3ヶ年でまとめたいと考えている。今年度は蛇窯に至った経過などについての調査や測量を実施する。2年目は発掘調査を行う。最終的に報告書を作成して陶の郷で公開していきたいと考えている。

会長：コロナ禍で3年、4年行われなかった祭礼が復活してきている。波々伯部神社の祭礼の曳き山の曳き手が少なくなったことから、今回、神戸大学、関西国際大学の学生に一泊二日の日程で宿泊をして各集落に入ってもらった。地元の方にも喜んでもらった。学生も地元に入って伝統文化に触れてもらうことができた。

また、新聞にも掲載されていたが畑まつりや10月14日、15日に行われる春日神社の祭礼も曳き手を募集して大学生が参加される。神事は神事として地域で執り行わなければならないが、神輿を担いだり、曳き山の曳き手になったり、乗り子になったりするのグローバルな世界でやらないと伝統が自然になくなってしまふ。曳き山の懸装品の見送りといったものの保存管理を一集落で行うことが難しくなってきた。波々伯部神社保存会などを作って8ヶ村が一緒に取り組まなければ難しい。

城東小学校の学校委員会では波々伯部神社の祭礼の乗り子を小学校区の範囲に広げようということも具体的になってきている。稽古に2週間ほどかかるので通えるところでないとなかなか難しい。そういうことも全体的にグローバルにお祭りを考えなければ、祭礼の継承はできない。保存の立場で考えなければいけない。今田の蛙おどりや木津の田楽などこれまで保存継承されてきたものが衰退していく。八朔祭りの造り山車の技術の伝承が難しくなっている。祭礼文化の継承について市全体で考える必要がある。

B委員：熊野神宮神社の祭礼は今年も中止になった。福住の住吉神社も波々伯部神社も祭礼が復活している中で、宮総代と自治会長が相談していても簡単に中止が決定された。1つの理由は宮司さんが亡くなられたということもあったのだが、全体的に意欲が減退している。大変残念である。

コロナ禍の前は関西国際大学の高根沢先生と学生に入ってもらい、7つの集落を何人かに配置してやっと山車が上がったが、もし大学生が来なければ熊野新宮神社の参道を山車は上がれない。多分、来年は各集落とも山車が上がれない。山車が上がれないというよりお宮さんに行くことが難しい。今、大変焦っている。乗り子の募集ではなく、我々は造り物を作らなければならない。その技術も人も必要である。伝承が非常に難しい。広報して何とか引き止めたい。今やらなければならないと思っている。3年中止にすると4年目に開催することは大変難しいと思っている。来年できなければ多分無理だと思う。

会 長：私も聞いている。やはり、やめるのは簡単。むしろその方が嬉しいという人も中にはいる。そういう時代になったのかなと思う。何とかそいった祭礼は継承していきたい。

C 委 員：祭礼に神戸大学と関西国際大学の学生がお手伝いされたということだが、個人のつながりで参加されたのか。

会 長：東部六地区協議会を日置、後川、雲部、村雲、大芋、福住の6地区で作った。市の農都政策官の清水先生が中心になられて神戸大学などあちこちの大学に声をかけていただき、最終的には神戸大学と関西国際大学の高根沢先生が中心になって進めていただいた。

C 委 員：私も大学で教えているが、祭礼に学生が参加させていただくのは大変貴重な体験で、興味を持っている学生はたくさんいると思う。こんな貴重な歴史のある祭礼には自分たちは参加できないと思っている学生はたくさんいると思う。祭礼で人が欲しいということをして市内で取りまとめていただき、大学に広く広報していただくと手をあげる学生はいるのではないかと。私は兵庫教育大学で教えている。兵庫教育大学は丹波篠山市に近いので参加したい学生はたくさんいると思う。

会 長：波々伯部神社の祭礼の時期は試験週間になっている大学が多かった。来年度以降は広報したい。今年1回生の学生は来年以降の参加をお願いされていた。学生は集落に溶け込んでいて、地元の人と見分けがつくよう学生用の法被を作成したが、学生は集落の法被を着せてもらっていた。また、女子学生も一緒に喜んで曳いていた。文化財になっているおやまを曳いて非常に感動していた。

C 委 員：大学に広く呼びかけるともっと集まると思う。留学生を篠山に連れてくるとすごく感動しているので留学生も喜んで参加すると思う。各大学の留学生にも声を掛けていただければと思う。本学でも協力させていただく。

会 長：丹波焼の郷文化観光拠点計画の話があったが、市野委員から何か意見はあるか。

D 委 員：明日の午後7時から旧陶芸館で若い窯のグループの方達が古い建物をこれからどう活用すればいいかという話し合いをされる。立杭の人たちも来てほしいと言われている。旧陶芸館を活用していきたいという話が出ている。

会 長：そういうふうに進んでいくことは喜ばしい。地元が盛り上がるのが大事。

D 委 員：関西学院大学の学生にも協力いただいている。

会 長：今はいろいろな地域に学生が入ってきている。若い力が地域の中に根付いていくのはいいことだと思う。

ナツツバキは今年どのような状況か。

E 委 員：ナツツバキが咲いたかどうかは分からない。また、アベマキが気になる。アベマ

キは今後どうなっていくのか。

事務局：こちらの方は根っこの方から腐って中が空洞になっていた。県指定の文化財なので県教育委員会に指定を解除するかどうかの相談をさせていただいた。状況を伝えたと解除もやむなしということだった。県の郷土記念物にもなっていた。文化財保護法では文化財としての価値を失ったら解除するという規定があるので解除もやむを得ないと考える。地域としては、ご神木なので同じ場所に飾ったり、モニュメントとして後世には伝えていきたいということである。ひこばえが芽を出しているそうなので地域において大切に育てていけたらという話も聞いた。

会長：承知した。

A 委員：春日神社の工事が令和6年の秋ぐらいまでかかるということは、例年開催されている春日能は中止となるのか、延期されるのか。

事務局：先日、春日能実行委員会が開催されて、その件について議論された。今のところ工事完了が7月なので、春日能に関しては7月以降で開催できないか、9月中頃から後半の間で実施できないか検討している。秋でも最近は暑いので日中の開催は難しいのではという意見も出ている。

会長：能実行委員会でよく議論いただきたい。

## 2) [市指定]天然記念物アズマイチゲ(群衆)の急傾斜地崩壊対策事業にかかる対応について 兵庫県民局丹波土木事務所公園砂防課により事業の詳細について説明

### 【意見等】

E 委員：アズマイチゲを確認することができる2月、3月にならないと分からない。現地によく行かれている方に聞き取り調査を行えば他の分布地が分かるかもしれない。

事務局：資料16ページの黒色の実線が土砂災害警戒区域で、その区域内に赤色で着色された区域が、資料17ページ写真にあるの説明板が建てられているところになる。面積的にはそんなに広くないが、群落がこの辺りにあるということで指定の説明板を設定している。今回予定している工事は住宅のある所と山すその間のどこかに擁壁を設置する。

自治会長や地域の方の立ち合いのもと現地調査を行ったが、やはり住民の命が一番大切であると考えておられる。ただ、アズマイチゲも山野草も大切に思っておられ、2月、3月の開花時期に観光客がたくさん来られるのも楽しみにされておられる。

擁壁も設置してアズマイチゲも守ることができればよいと思っている。樋口清一先生にも現地を確認いただき、出来る限りの保護措置をとって急傾斜地の工事を行うようアドバイスをいただいた。施工後にアズマイチゲが消えてしまったらどうするのか、広い範囲での分布地が見られるのでアズマイチゲの価値をどう考えるかも含めて今後検討する必要がある。

会長：アズマイチゲが咲くころに再度調査を行う必要がある。

事務局：委員が現場を確認した上で方法等について結論を出したい。

会長：委員のみなさんに時間をとっていただいて現場を見ていただく。写真だけではなかなか様子が分からない。どのような状況か実際に見て確認することが重要であ

る。文化財課で調整をお願いする。

事務局：2月、3月で日程調整を行い、みなさんに見ていただきたいと思う。

また、今年度、県による測量作業を行うので、その点については委員のみなさまにはご了承いただきたい。

会長：アベマキもそうだが、寸原の大ケヤキといった天然記念物の大木は、今後、これだけの気候変動でどのような大きな台風がやってくるかも分からないので悉皆調査が必要になってくるのではないかと思う。来年度でよいのでパトロール員を任命してパトロールを行えるよう予算化の検討をお願いする。

(7) 閉会

以上